北の文脈ニュース　第74号

Kitano bunmyaku news

第39回企画展記念講演会開催！

講演中の松田氏

松田修一氏を講師に招いて、記念講演会「新聞『日本』展を顧みて」と題し、８月22日、弘前市立図書館の視聴覚室で開催されました。講演から抜き出します。

陸羯南は弘前出身の明治を代表する新聞人であり、教科書に出てくる人物でありますが、陸（くが）と読める人は少なく、青森県内の人でさえ、名前を知らない人が多いわけです。「新聞『日本』展」で羯南を知ってもらうためには、羯南と関係の深い正岡子規をとりあげました。全国でも知らない人はいない。子規との関係を探っていくことで、羯南という人を知ってもらえるのではないかということです。子規は日本新聞社に入社します。肺結核の子規に深い情をかけて、最後まで面倒を見たのが羯南でした。

羯南の人柄を慕って、日本新聞社に青森県内から少なくとも 13 人は入社しています。その一人に佐藤紅緑がいます。その紅緑が先生と呼んだのは陸羯南と正岡子規の二人だけでありました。

松田氏は、「今後も羯南を広めていきたい」と熱く語り、講演会は大盛況に終わりました。
たくさんの御来場、ありがとうございました！！

2015年は陸羯南の年！

横浜でも羯南展!!

ただいま、第39回企画展「陸羯南展」を開催していますが、6月20日から8月9日まで、神奈川県横浜市の日本新聞博物館においても『孤高の新聞「日本」－羯南、子規らの格闘』（主催：東奥日報社・愛媛新聞社・日本新聞博物館）が開催され、理想の新聞を求めて奮闘した新聞『日本』の人々の軌跡が紹介されました。

オープニングセレモニーには、葛西憲之弘前市長、郷土文学館舘田勝弘企画研究専門官が出席し、開催を祝いました。

「新聞『日本』展」には当館所有の資料が多数展示され、羯南の業績を全国に紹介する良い機会となりました。

また、12月19日から2016年2月28日まで、弘前市立博物館で「陸羯南とその時代」が開催されます。

2015年は、まさに陸羯南の年と言えるでしょう。

§ 第39回企画展「陸羯南展」開催中 §
（平成28年1月3日まで）

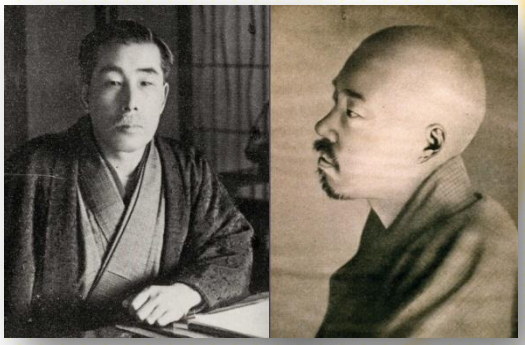
スポット企画展

佐藤紅緑と正岡子規　開催中!!

会期：平成 27 年 9 月 1 日～11 月 30 日

陸羯南の書生となった佐藤紅緑は、やがて新聞『日本』に入社して、正岡子規に出会いました。紅緑は、子規に俳句を学んで、やがて、子規四天王の一人と言われます。紅緑は、羯南と子規に師事したこと、門人であったことは一代の名誉であり幸福であると言い、生涯にわたって、先生と呼ぶのは、羯南と子規だけだと言ったのでした。

佐藤紅緑と正岡子規この二人の関係を併設企画展「陸羯南」展と関連付けて展示しておりますので、ぜひご観覧ください。

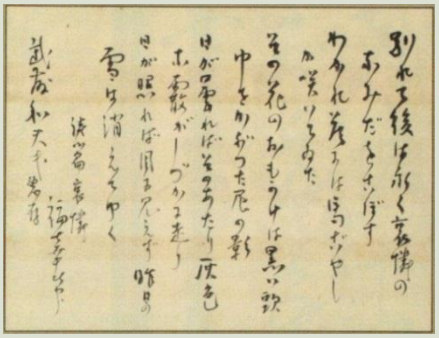


資　料　紹　介

次回の企画展は、「福士幸次郎」展を予定しています。
弘前市出身の詩人・歴史民俗学者で、詩集『太陽の子』によって口語自由詩の先駆者の一人として詩壇に登場した人物です。
新資料の二作品は、詩集『展望』に収められています。

■ 福士幸次郎詩額　「哀憐」

紙本墨筆

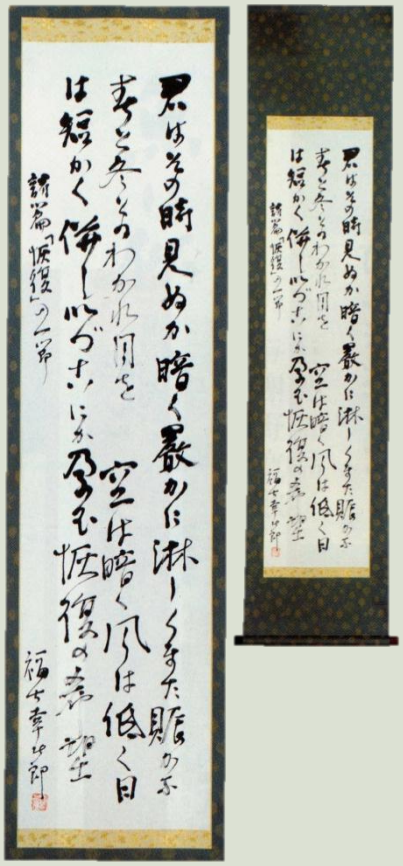


「別れて後は永く哀憐のなみだをこぼす
わかれ路には馬ごやしが咲いてゐた・・・・・」

東奥義塾で国語教師をしていた福士の教え子今官一は、「哀憐」の朗読を聞いています。
「作者自身の口から、直接に、胸に呼びかけてくる、このなまな文学には、息の止るような感動があった。」と『詩人福士幸次郎』に記録しています。

■ 福士幸次郎詩幅
『詩篇「恢復」の一節』

紙本墨筆



「君はその時見ぬか　暗く厳かに淋しくまた賑かな
春と冬とのわかれ目を　空は暗く風は低く日
は短かく　併しいづこにか孕む恢復の希望」

北の文脈ニュース第74号　発行年月日：平成27年9月１日　編集/発行：弘前市立郷土文学館
〒036-8356 青森県弘前市下白銀町 2-1 ℡0172-37-5505　http://hi-it.net/~bungaku/